

紙づて

英文の中には文章構成がはつきりせず、理解しにくいものがある。そういう英文に出会うと、読んでいる人は、たとえば「目的語〇〇が省略されている」と、知らず知らずに仮定する。その目的語を補って再び文章を読む。その英文が理解できたら「目的語〇〇が省略されている」という仮説は正しい、となる。

英文解読作業は、研究の過程とそっくりだ。一例をあげる。生命現象の記述や測定をして実験データを蓄積する。一見混沌としているデータの山を注意深く分析し、本質を突くものを発見する。それら本質的なデータを矛盾なく説明する仮説を立てる。仮説の妥当性を検証する実験を重ねていく。そして、仮説を否定しない結果が出続け

英語と研究

もり 郁恵

れば、仮説は真実に変わる。

したがって、英文を読む力を身につけると、研究する力に磨きがかかると思う。ただし英文解読は、英文法をきちんと学んでいることが前提だ。そうなること、従来の英語への入り方である「文法重視」の教育も捨てたもんじゃない。

「耳から学ぶ幼児からの英会話」も良い試みと思う。だが、文化に根ざした日本語をきちんと話せない日本人が「真の国際人」になれるとは到底思えない。

確固たる文化背景に基づいた主張には、国際舞台で人を説得する威力がある。日本人科学者も、堂々と研究成果を発表し、議論を戦わせてこそ「本物」だ。正しい英文法に基づく品格ある英語は、なお一層説得力を増す。

(名古屋大学教授)

2011.3.18



夕刊

発行所 中日新聞社
名古屋市中区三の丸一丁目6番1号
〒460-8511 電話 052(201)8811

就業力育成フォーラム

短大大学における
就業力の育成

日時 3月19日(土)
13:30-16:30
場所 名古屋経済大学短期大学部
交際センター10キキーンバス
10階ホール

◆短大の質の向上を目指す
【社会人に必要な人材と短大へ大学教育に期待すること】
◆短大の質の向上を目指す
【社会人に必要な人材と短大へ大学教育に期待すること】
◆短大の質の向上を目指す
【社会人に必要な人材と短大へ大学教育に期待すること】

大震災関連

- 13 12 3 2
- 原発推進 見直しは必至
- G7 結束 スピード決定
- 全男7歳女性「生きる」
- がれきの街「復興必ず」
- 3の遺 4の株 商況
- クラフ、小説 9芸能 10旅

情報掲示板

- 2
- お断り ニュース
- 子報、スポーツは休
- み、紙つぶては2
- 面、あすの天気は3
- 面、あの人に迫るは
- 7面に移しました。